

人と人との「つながり」

港区立青山中学校長 福井 正仁

このところ、人と人との「つながり」がよく話題に上ります。人の孤立化が指摘され、それに伴う問題も起きています。一方、世界に視点を移すと、国際紛争や地球温暖化などの問題も切実です。今、「つながり」が取り上げられることが多いのは、これらの多種多様な問題に立ち向かい、解決する糸口が「つながり」にあるからです。

子どもたちの学習や生活の充実にも、学校、家庭、地域の人々の「つながり」が大変重要な要素であることが、いくつかの調査で明らかになっています。学校は、まさに人と人との「つながり」で成り立つ組織です。人が気持ちよくつながるためには、不断の努力が必要です。第二次性徴を迎える時期の中学生は、人との関係に大変敏感になり、人間関係のトラブルに悩むことも多くなります。親しい仲間同士でも、互いに非常に気を遣いながら生活している姿を見ていると、中学生は私たちが考えている以上に「大人」であり、何とかよい関係をつくりたいと願い、苦勞していることが分かります。中学生時代に、人と人との多様な「つながり」を体験し、「つながり」の温かさや有り難さを味わってほしいと願わずにはいられません。そして、「つながり」をバネに、自らの人生を切り開き、心を豊かにして行ってほしいと思います。

以下に、今年度の「青中だより」から、「つながり」にかかわるものを拾ってみました。学校は、人と人との「つながり」のコーディネーターの役割を担っていることを改めて実感します。これからも、温かい「つながり」を一層強める取組を進めていきたいと考えます。

1 式根島中学校との交流会

5月15日(木)、港区から約160km離れた新島村立式根島中学校との交流会を実施しました。今回が初めての交流会で、修学旅行中の3年生5名を除き、1・2年生6人が来校し、本校生徒と一緒に4時間の授業を受け、給食も食べて交流しました。朝の全校での歓迎集会で、式根島中学校生徒が、島や学校の紹介をしました。式根島にないものを当てるクイズもあり、銀行、高校、コンビニ、魚屋、タクシーが挙げられました。実は、このすべてが式根島にはないとの説明に本校生徒は驚き、環境が大きく異なっていることを実感しました。しかし、交流が進むにつれ、生活する環境が違っていても、中学生は中学生であり、人としての生き方や大事にしていることには大きな違いはないことにも気付く、貴重な体験となりました。これからも、生徒の多様な出会いを計画的に進め、経験の量と質の充実を図る活動を促進したいと考えます。 (「青中だより」平成26年6月号より抜粋)

2 集団と個人

毎年の卒業生が、中学校生活3年間で最も思い出深いものとして挙げるのは、修学旅行、運動会、学芸発表会などの行事です。ところで、中学校の宿泊行事は、1年生で長野県の八ヶ岳、野辺山、車山方面への3泊4日の移動教室、2年生は夏休み中に新潟県十日町への夏季学園で3泊のうち1泊は農家での民泊です。そして、3年生は、京都、奈良への2泊の修学旅行です。各学年で宿泊行事があっても、3年生の修学旅行は、中学校生活の総まとめをし、次の進路を切り開こうとしている時期の友人とのふれあいは格別のものがあるのだと思います。

今年の修学旅行は、6月11～13日で、1泊目は奈良の若草山のふもとの日本旅館に泊まり、夕食後、東大寺二月堂を散策し、鐘楼の前で8時の鐘を聴きました。2泊目は京都の知恩院の中にある宿泊施設に泊まり、京都市内は、グループごとにバスやタクシーで見学しました。集団で行動するとき、個人の満足は80%に抑え、集団として満足できる行動を心がけました。中には、個人のことは70、60、50%に抑えてでも、集団のことを考えて行動した場面もあり、さすがに3年生だと、大変頼もしく思いました。

運動会でも、全校や学年全員が出場する種目では、一人一人が集団のために力を尽くし、団結します。そして、その団結が一人一人を成長させます。つまり、個人が集団をつくり、集団が個人をつくるわけです。学校では、集団と個人の関係を学ぶことを通して、生徒が一步一步大人に近づきます。
(「青中だより」平成26年7月号より抜粋)

3 職場体験、青山特別支援学校との交流会

2年生は、9月17日(水)～19日(金)の三日間、地元の19の事業所(企業や公官庁等)に受け入れていただき、職場体験を実施しました。入念な事前学習、各事業所への事前訪問を行い、ホテルオークラ東京の専門家をお招きしたマナー講座も開きました。職場体験は、生徒が仕事の遣り甲斐や厳しさの一端に触れ、自らの将来の進路について真剣に考える契機となりました。ご多用のところ生徒たちに丁寧にご指導いただいた事業所の皆様に、心より感謝申し上げます。また、平成27年2月6日(金)午後、1年生の職場訪問(半日)を実施いたしますので、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

9月19日(金)午後、1年生全員と3組生徒が、都立青山特別支援学校を訪問し、中学部生徒との交流会を開きました。一週間前に、青山特別支援学校の先生に来ていただき、障害のある人への接し方などについて話を伺ったこともあり、当日は、ボール運び競走やフォークダンスなど、温かい雰囲気での交流が進みました。青山特別支援学校は、今年4月に、港南にある港特別支援学校から小・中学部が分離した学校で、9月から南青山二丁目の新校舎で、小学部58人、中学部34人が学んでいます。地域の学校として、連携を深めていきたいと考えます。
(「青中だより」平成26年10月号より抜粋)

4 地域防災の担い手としての中学生

港区総合防災訓練(赤坂青山地区)が、11月2日(日)、本校を会場に実施されました。町会・自治会ごとの集合訓練、応急救護訓練、配給訓練等、日頃の各防災協議会等の活動の成果を確認する大規模な訓練で、地域の皆様の日頃の「つながり」が強く、厚いことを改めて実感いたしました。地域の「つながり」の中で、地域の子どもたちが、安心して多様な社会経験をさせていただいています。地域の沢山の皆様に重層的に子どもたちにかかわっていただける環境は、子どもの成長にとって何にも代え難い貴重な環境です。このような地域の「つながり」に感謝し、学校においても、地域の皆様のご支援による教育活動や生徒の地域行事へのかかわりなど、「つながり」を強める活動を一層推進してまいります。そして、生徒に地域の一員としての自覚をもたせ、大人へのステップを確実に上らせたいと考えます。

総合防災訓練に続いて、11月15日(土)、日本赤十字社、赤坂地区総合支所のご支援により、学校が避難所となることを想定した災害学習と避難所設営訓練を生徒対象に実施しました。災害学習では、「命の大切さ、自助と共助の重要性」をテーマに講話をいただき、3年生は、東京都赤十字救援ボランティアの皆様による一次救命措置の実技講習を受けました。また、避難所設営では、マンホール・トイレ設置、投光機作動、段ボール使用の避難場所設置等の訓練を行いました。非常時は、中学生は何かを「してもらおう」だけではなく、地域のためにできることを「する」立場にあることの自覚を高めることができました。
(「青中だより」平成26年12月号より抜粋)